

# 防災の日



9月1日は防災の日。

1923（大正12）年のこの日に起きた「関東大震災の教訓を忘れない」という意味と、この時期に多い台風に対する心構えの意味も含めて、1960（昭和35）年に制定されました。

この防災の日にちなんで、家庭の災害対策チェック事項を再確認。家族全員で防災について話し合い、確認しあう一人ひとりの意識づけが大切です。

## 避難場所まで シュミレーションしてみよう

まず、いざという時に備え、家族全員で避難場所を確認しておきましょう。場所がわかっただけでは、自宅から避難場所へのルートを決めて実際に歩いてみましょう。

もし、家族が離れてしまった時のために集合場所や緊急連絡先を決めておくことも大切です。

## 用意しておきたい

### 非常持ち出し袋

もし災害に見舞われたら、何を持って出たらいいか慌ててしまうものです。この機会にもしやの非常事態に備えて「非常持ち出し袋」を用意しておきましょう。

また、1年に1度は必ず点検しましょう。電池やミネラルウォーター、缶詰などは古くなっていけば新しいものと

交換します。

その他にも災害直後には持ち出せなくても後々使用できるように、水やインスタント食品を別にストックしておくことと便利です。

## 部屋の点検

家具の転倒防止対策として、部屋中の家具を点検。ちよつとした対策で大きな事故を防ぐことができるので、次のことを実行し、地震に備え

ましょう。

- ① 照明器具はチェーンと金具で天井に固定する。
- ② 2段重ねのタンスは金具で連結しておく。また、上段に軽いもの、下段に重いものを入れるように日ごろから心がける。
- ③ 窓ガラスのついた食器棚などは飛散防止フィルムを張っておく。

## 非常持ち出し袋の中身



〈救急キット〉  
・内容に過不足ない市販のセットが使いやすい。



〈懐中電灯〉  
・小型で明るいものを。



〈飲料水〉  
・ペットボトルのミネラルウォーターは1年ごとに交換を。



〈携帯ラジオ〉  
・AMとFM両方受信でき、電池が懐中電灯と共用できるものがベスト。替えの電池もテープで張り付けて。



〈非常食〉  
・食べるとのどが乾くカンパンより、チョコレートやカロリーメイトが◎。



〈下着・生理用品〉  
・下着は最低1セット。生理用品は使い慣れたものを。



〈靴下・軍手〉  
・ガラスの飛び散った室内を歩くには、厚手の靴下が最適。手を保護する軍手も必需品。



〈現金〉  
・1週間しのげるくらいの額を目安に。公衆電話は硬貨しか使えなくなるので10円玉、100円玉を多めに。紙幣も1000円札がベスト。



〈トイレトペーパー〉  
・芯を抜いてつぶしておく。



〈ウェットティッシュ〉  
・水が使えないとき役立つ。

# もう一度見直してみよう

## 「緊急地震速報」が始まります

「緊急地震速報」は、震源に近い観測点で地震を検知し、直ちに震源や地震の規模（マグニチュード）、各地の震度などを推定し、大きな揺れが迫っていることのお知らせを目指す情報です。この情報を聞いて、大きな揺れが始まる前に防災行動をとることに より、地震被害の軽減が期待されます。

しかし、「緊急地震速報」には情報の提供から大きな揺れが始まるまでは、長い場合でも数十秒程度であり、震源に近いところでは、情報の提供が主要動の到達に間に合わない場合があるなどの技術的な限界があります。

気象庁では緊急地震速報の提供に伴う事故や混乱を防止しつつ、地震による被害を少しでも軽減するため、平成18年8月1日から現時点においても「緊急地震速報」を混乱なく利用できる分野への先行的な情報提供を開始しました。

また、本年9月ごろにはテレビ・ラジオなどによる放送

を含め、広く国民への提供を開始する予定です。「緊急地震速報」を有効に活用し、身の安全を守るためには、情報を受けたときにどのように行動すればよいかという「緊急地震速報の利用の心得」を理解していただくことが重要です。なお、緊急地震速報の詳細などについては、

気象庁ホームページ (<http://www.jma.go.jp>) をご覧ください。

### 問い合わせ

宇都宮地方気象台防災業務課  
☎ 028-635-7260

### 緊急地震速報のしくみ

緊急地震速報は、震源近くで地震（P波、初期微動）をキャッチし、位置、規模、想定される揺れの強さを自動計算します。地震による強い揺れ（S波、主要動）が始まる数秒〜数十秒前に素早くお知らせします。

ただし、震源に近い地域では、「緊急地震速報」が強い揺れに間に合わない場合があります。

